

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成30年2月9日
【四半期会計期間】	第35期第3四半期（自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日）
【会社名】	株式会社A S J
【英訳名】	ASJ INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長兼社長 丸山 治昭
【本店の所在の場所】	埼玉県川口市栄町三丁目2番16号
【電話番号】	048(259)5111
【事務連絡者氏名】	取締役 IR部長 仁井 健友
【最寄りの連絡場所】	埼玉県川口市栄町三丁目2番16号
【電話番号】	048(259)5111
【事務連絡者氏名】	取締役 IR部長 仁井 健友
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第34期 第3四半期 連結累計期間	第35期 第3四半期 連結累計期間	第34期
会計期間	自平成28年4月1日 至平成28年12月31日	自平成29年4月1日 至平成29年12月31日	自平成28年4月1日 至平成29年3月31日
売上高 (千円)	1,633,242	1,628,144	2,295,560
経常損失 () (千円)	89,806	13,854	41,978
親会社株主に帰属する四半期 (当期) 純損失 () (千円)	96,198	27,067	67,390
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	96,626	26,695	69,113
純資産額 (千円)	2,013,656	3,128,656	2,067,697
総資産額 (千円)	3,937,684	4,096,584	3,908,119
1株当たり四半期 (当期) 純損失金額 () (円)	15.01	3.56	10.40
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期) 純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	51.0	76.4	52.8

回次	第34期 第3四半期 連結会計期間	第35期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自平成28年10月1日 至平成28年12月31日	自平成29年10月1日 至平成29年12月31日
1株当たり四半期純損失金額 () (円)	1.26	2.51

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移につきましては記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第34期第3四半期連結累計期間及び第34期は、潜在株式が存在するものの1株当たり四半期 (当期) 純損失であるため、また第35期第3四半期連結累計期間は潜在株式が存在しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期) 純利益金額を記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ (当社及び当社の関係会社) が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当第3四半期連結会計期間の末日現在において、当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間における当社グループの概況としましては、新たなサービスの提供に必要となる研究開発及び営業活動の強化等、将来の収益拡大に向けた投資活動を行ってまいりました。

その結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は1,628,144千円（前年同期比0.3%減）となり、利益面につきましては、営業損失11,557千円、経常損失13,854千円、親会社株主に帰属する四半期純損失は27,067千円（前年同期比69,131千円の改善）と前年同期と比較して大幅に改善いたしました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の総資産につきましては、資金調達の実施及び営業キャッシュ・フローの増加に伴う現金預金の増加に加え、積極的な事業投資を行った結果、前連結会計年度末と比べ188,465千円増加し4,096,584千円となりました。負債につきましては、短期借入金を全額返済したこと等により、前連結会計年度末と比べ872,493千円減少し967,928千円となりました。

また、純資産につきましては、前連結会計年度末と比較して1,060,958千円増加し、3,128,656千円となり、自己資本比率は前連結会計年度末と比べ23.6ポイント上昇し、76.4%となりました。

(3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における、研究開発活動の金額は、27,835千円（前年同期は、27,682千円）となりました。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種 類	発行可能株式総数(株)
普通株式	26,400,000
計	26,400,000

【発行済株式】

種 類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成30年2月9日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内 容
普通株式	7,947,100	7,947,100	東京証券取引所 マザーズ	単元株式数は100株で あります。
計	7,947,100	7,947,100	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成29年10月1日～ 平成29年12月31日	-	7,947,100	-	1,373,833	-	684,396

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成29年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成29年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 94,900	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 7,851,400	78,514	-
単元未満株式	普通株式 800	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	7,947,100	-	-
総株主の議決権	-	78,514	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が700株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数7個が含まれております。

【自己株式等】

平成29年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社A S J	埼玉県川口市栄町3丁目2-16	94,900	-	94,900	1.19
計	-	94,900	-	94,900	1.19

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成29年10月1日から平成29年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、赤坂有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,147,585	1,119,516
受取手形及び売掛金	116,274	75,103
有価証券	9,666	9,739
商品及び製品	36,601	46,629
仕掛品	19,264	47,905
原材料及び貯蔵品	1,260	1,726
その他	279,927	370,692
流動資産合計	1,610,579	1,671,313
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	519,584	509,544
土地	793,720	793,720
その他(純額)	25,785	22,394
有形固定資産合計	1,339,090	1,325,659
無形固定資産		
のれん	257,524	234,385
その他	628,883	787,457
無形固定資産合計	886,408	1,021,842
投資その他の資産	68,660	71,076
固定資産合計	2,294,159	2,418,578
繰延資産	3,380	6,692
資産合計	3,908,119	4,096,584

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	78,736	83,476
短期借入金	991,000	-
未払法人税等	17,341	28,964
賞与引当金	19,982	25,032
その他	522,142	620,114
流動負債合計	1,629,203	757,587
固定負債		
退職給付に係る負債	141,993	142,259
役員退職慰労引当金	24,440	24,440
その他	44,783	43,640
固定負債合計	211,217	210,340
負債合計	1,840,421	967,928
純資産の部		
株主資本		
資本金	919,250	1,373,833
資本剰余金	778,175	1,242,194
利益剰余金	595,029	554,478
自己株式	228,858	42,460
株主資本合計	2,063,596	3,128,046
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	165	296
為替換算調整勘定	71	312
その他の包括利益累計額合計	237	609
新株予約権	3,863	-
純資産合計	2,067,697	3,128,656
負債純資産合計	3,908,119	4,096,584

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第 3 四半期連結累計期間】

(単位 : 千円)

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 平成28年 4 月 1 日 至 平成28年12月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 平成29年 4 月 1 日 至 平成29年12月31日)
売上高	1,633,242	1,628,144
売上原価	1,041,962	990,041
売上総利益	591,280	638,102
販売費及び一般管理費	677,854	649,660
営業損失 ()	86,574	11,557
営業外収益		
受取利息及び配当金	533	42
その他	2,067	1,504
営業外収益合計	2,600	1,547
営業外費用		
支払利息	4,923	1,509
新株予約権発行費償却	910	1,170
株式交付費償却	-	1,081
その他	-	82
営業外費用合計	5,833	3,844
経常損失 ()	89,806	13,854
税金等調整前四半期純損失 ()	89,806	13,854
法人税、住民税及び事業税	8,171	13,212
法人税等合計	8,171	13,212
四半期純損失 ()	97,978	27,067
非支配株主に帰属する四半期純損失 ()	1,779	-
親会社株主に帰属する四半期純損失 ()	96,198	27,067

【四半期連結包括利益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
四半期純損失()	97,978	27,067
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	233	131
為替換算調整勘定	1,117	240
その他の包括利益合計	1,351	371
四半期包括利益	96,626	26,695
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	94,847	26,695
非支配株主に係る四半期包括利益	1,779	-

【注記事項】

(会計方針の変更)

(税金費用の計算方法の変更)

税金費用の計算は、従来、四半期会計期間を含む年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて算定しておりましたが、第 1 四半期連結会計期間より、年度決算と同様の方法による税金費用の計算における簡便的な方法に変更しております。この変更は、各四半期の利益に対応した税金費用を精緻に計算して計上する為であります。

なお、当該会計方針の変更による当第 3 四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であるため、遡及適用はしていません。

(四半期連結損益計算書関係)

(業績の季節的変動)

当社グループでは、第 4 四半期連結会計期間において、他の四半期と比較して売上高及び利益が集中する傾向にあります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第 3 四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していません。なお、第 3 四半期連結累計期間に係る減価償却費 (のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。) 及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 平成28年 4 月 1 日 至 平成28年12月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 平成29年 4 月 1 日 至 平成29年12月31日)
減価償却費	149,702千円	142,031千円
のれんの償却額	35,477千円	23,139千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1. 配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年5月9日 取締役会決議	普通株式	12,704	2	平成28年3月31日	平成28年6月10日	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動

当第3四半期連結累計期間において、行使価額修正条項付第1回新株予約権の一部行使による自己株式の処分等により、資本剰余金が37,401千円減少し、自己株式が142,102千円減少しております。この結果、当第3四半期連結会計期間末において資本剰余金は783,970千円、自己株式は261,162千円となりました。

当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

1. 配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年5月11日 取締役会決議	普通株式	13,484	2	平成29年3月31日	平成29年6月8日	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動

当第3四半期連結累計期間において、行使価額修正条項付第1回新株予約権の行使による自己株式の処分及び新株発行により、資本金が454,583千円増加するとともに、資本剰余金が464,019千円増加、自己株式が186,397千円減少しております。

この結果、当第3四半期連結会計期間末において、資本金は1,373,833千円、資本剰余金は1,242,194千円、自己株式は42,460千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)

当社グループは単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
1株当たり四半期純損失金額	15円01銭	3円56銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失金額 (千円)	96,198	27,067
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純損失金額(千円)	96,198	27,067
普通株式の期中平均株式数(株)	6,410,393	7,611,774

(注) 前第3四半期連結累計期間は、潜在株式が存在するものの1株当たり四半期純損失であるため、また当第3四半期連結累計期間は潜在株式が存在しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年2月9日

株式会社A S J

取締役会 御中

赤坂有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山本 顕三 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 林 令史 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社A S Jの平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成29年10月1日から平成29年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社A S J及び連結子会社の平成29年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

その他の事項

会社の平成29年3月31日をもって終了した前連結会計年度の第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間に係る四半期連結財務諸表並びに前連結会計年度の連結財務諸表は、それぞれ、前任監査人によって四半期レビュー及び監査が実施されている。前任監査人は、当該四半期連結財務諸表に対して平成29年2月10日付けで無限定の結論を表明しており、また、当該連結財務諸表に対して平成29年6月21日付けで無限定適正意見を表明している。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。